

第11回北太平洋溯河性魚類委員会年次会議

うらわ しげひこ
浦和 茂彦 (調査研究課遺伝資源研究室長)

北太平洋溯河性魚類委員会 (NPAFC, <http://www.npafc.org/>) は1993年に発効した「北太平洋における溯河性魚類の系群の保存のための条約」により設立され、カナダ、日本、ロシアと米国の4カ国に加え、2003年5月より韓国が加盟した。科学調査統計 (CSRS)、取締 (ENFO) と財政運営 (F&A) の各小委員会があり、CSRSでは科学分科会と資源評価、標識、系群識別、ベーリング海さけ・ます調査 (BASIS) の各作業グループが活動している。2003年10月26-31日にハワイ州のワイキキ・コンベンションセンターにおいて開催された第11回NPAFC年次会議CSRSおよび11月1-2日に東西交流センターで開催されたさけ・ます類の系群識別に関するワークショップに参加したので当センターに関連した事項の概要を紹介する。



図1. 有名なワイキキビーチにも近いアラワイ運河沿いのワイキキ・コンベンションセンターが会場となった。楽園を楽しむ人々を横目に会場とホテルを往復する日々であった。

さけ・ます漁獲量と放流数

各国から報告された統計データによると、2002年における北太平洋全域のさけ・ます類総漁獲量は726,852トンであり、前年(818,205トン)よりも11%減少した。これはカラフトマス漁獲量が約10万トン減少したためで、他魚種の漁獲量はほぼ前年並か増加傾向にあった。一方、2003年におけるさけ・ます総漁獲量は速報値で80万トンを超えた。2002年に各国の孵化場から放流されたさけ・ます類は約49億8千万尾であり、そのうちサケが28億3千万尾と57%を占めた(詳細については12頁の統計データを参照)。



図2. 本会議で Jack Helle 博士がBASISの進行状況を報告した。今回より中央に韓国の国旗が加わった。手前は日本代表团。

ドキュメントの検討

各国より提出された科学ドキュメントは61編に及んだ。特にロシア人科学者による積極的な発表が目立ち、その中にはオホーツク海におけるさけ・ます類幼魚の分布に関するデータベース (Volvenko 2003)、千島列島の国後島やウルップ島におけるさけ・ます類資源量に関する報告 (Kaev and Romasenko 2003; Zhivoglyadov et al. 2003) など注目すべきドキュメントも含まれていた。当センターからはオホーツク海におけるサケ幼魚の系群識別 (Urawa et al. 2003)、耳石標識 (Kawana et al. 2003a,b) および日本のさけ・ます増殖 (Ezure and Hirabayashi 2003) に関するドキュメントを提出した。

作業グループの活動

資源評価作業グループは現在のさけ・ます類資源のステータス・レポートを作成したほか (Working Group on Stock Assessment 2003)、韓国が

ら要求のあった同国におけるサケ資源の低下に関する論議を行った。標識作業グループは耳石標識データベースの更新、インターネットでアクセス可能なデータベースの構築、2003年級群に対する耳石標識パターンの調整を行った。2002年に放流された耳石標識魚は約12億尾に達した。各国で採用されている耳石標識のパターンや放流数などの情報はNPAFCのホームページ (<http://www.npafc.org/>) より入手可能となった。系群識別作業グループは現在の遺伝的系群識別のための基準群の状況について論議した。サケとマスノスケに関しては充実してきているが、カラフトマスの基準群が整備されていないことが将来の課題として残っている。BASIS作業グループは2002年のベーリング海における調査報告書 (North Pacific Anadromous Fish Commission 2003)、2003/2004調査の調整、外部資金の獲得などについて検討した。また後述のように2004年に札幌で開催される年

次会議に併せて BASIS ワークショップを開催することになった。

韓国のサケ資源

初めて提出された韓国の統計データによると、2002年同国におけるサケの放流数は1,045万尾で、回帰数は59,932尾（沿岸41,839尾、河川18,093尾）であった（Yangyang Inland Fisheries Research Institute 2003）。韓国産サケ資源量は1996-97年に20万尾を超えたが、2000年には16,985尾に減少した。本会議において韓国は、1）回遊ルートの解明、2）回帰率の向上、3）他国からの発眼卵の移入、4）技術援助と研究交流を求めた。回遊ルートの解明については資源量が相対的に少ないため、耳石標識を導入することが勧告された。回帰数を増加させるため他国より発眼卵を移入し放流数を5,000万尾程度にしたいとの希望が出されたが、低回帰率の原因を解明するのが先決であり、卵の移入は系群保全の面から好ましくないこと、韓国産サケの遺伝特性を明らかにする必要が指摘された。これに関連して日本は韓国産サケの遺伝標本を要求し、韓国側は提供を約束した。また調査船への乗船、調査研究や耳石標識などのための援助資金としてNPAFC特別基金より1万ドルを韓国に提供することになった。

系群識別ワークショップ

「さけ・ます類の海洋分布と移動を解明するための系群識別の応用に関する国際ワークショップ」がハワイ大学マノア校内にある東西交流センターで開催された。日本からは北海道大学の上田先生と阿部先生、北海道東海大学の帰山先生、道立孵化場の永田さん、日清紡研究所の守屋さんらが参加した。基調講演と各国における系群識別研究の総説に続き、最新の系群識別技術、基準群の現状、統計解析法などに関する発表が行われた。これらの成果は2004年春発行のNPAFC Technical Report 5号に掲載される予定である。

第12回年次会議は札幌開催

次回の年次会議は2004年10月下旬に札幌で開催されることが決定した。日本において東京以外で年次会議が開催されるのは初めてのことであり、年次会議に加えて一般市民を対象とした公開セミナーとベーリング海のさけ・ます類に関するワークショップが開かれる。スケジュールは下記の通りで、いずれも札幌市白石区にある札幌コンベンションセンターが会場となる。詳細については次号で紹介したい。

10月23-24日 NPAFC 公開市民講座とパネル展
10月24-29日 NPAFC 年次会議
10月30-31日 BASIS ワークショップ



図3. 系群識別ワークショップのコーディネーターたち。左より Lisa Seeb (co-chair), Richard Wilmot, Natalia Varnavskaya 博士と著者 (co-chair)。

引用文献

- Ezure, M. and Y. Hirabayashi. 2003. Preliminary 2002 salmon enhancement production in Japan. NPAFC Doc. 720. 3 p.
- Kaev, A. M., and L.V. Romasenko. 2003. Some results of studying the Kunashir Island pink salmon (Kuril Islands). NPAFC Doc. 671. 16 p.
- Kawana, M., S. Urawa, and H. Adachi. 2003a. Proposed thermal marks for brood year 2003 salmon in Japan. NPAFC Doc. 665 Rev. 1. 5 p.
- Kawana, M., S. Urawa, and H. Adachi. 2003b. Releases of thermally marked salmon from Japan in 2003. NPAFC Doc. 719. 8 p.
- North Pacific Anadromous Fish Commission. 2003. Annual Report of the Bering-Aleutian Salmon International Survey (BASIS), 2002. NPAFC Doc. 684. 38 p.
- Urawa, S., J. Seki, M. Kawana, T. Saito, P. A. Crane, L. Seeb, M. Fukuwaka, A. Rogatnykh, and E. Akinicheva. 2003. Origins of juvenile chum salmon caught in the Okhotsk Sea during the fall of 2000. NPAFC Doc. 721. 12 p.
- Volvenko, I. 2003. Knowledge base and catalogue of salmon abundance in the Okhotsk Sea. NPAFC Doc. 731. 69 p.
- Working Group on Stock Assessment. 2003. A provisional report on the 2003 salmon season. NPAFC Doc. 738. 16 p.
- Yangyang Inland Fisheries Research Institute. 2003. Biostatistical information on salmon catches and juveniles released in Korea in 2002. NPAFC Doc. 735. 2 p.
- Zhivoglyadov A. A., V. A. Ulchenko, A. N. Kozlov. 2003. Preliminary results of studying Pacific salmon (*Oncorhynchus*) of the Urup Island. NPAFC Doc. 681 Rev. 1. 12 p.